

中国の新世代「80后ママ」の実態

価値観、消費と理想像

博報堂 研究開発局上席研究員・上海在住
松浦良高

中国の「イマドキの若いお母さん」とは一体どんな感じなのだろうか？筆者はこれまでに中国の若者を中心に研究を続けてきたが、80后と呼ばれる80年代生まれの若者ももう既に30代に突入し始めている。まさに、就職してから数年がたち、結婚そして出産という新たなライフステージに移行している。これまであまり語られてこなかった中国の80后ママをここでは取り上げてみたい。

自分の考えを持つ

これまでの中国の母親たちと違って、自分なりの意見を持つ。彼女たちは、「私の親の世代は、みんな似ていて、誰もが似たような価値観を持っている」という。社会の規則や、普遍的な価値を重視するのが昔のママ。それに対して、80后ママたちは、自分の個性を大切に。昔のママをただ単に見習うのではなく、新しいことを取り入れ、人とは違って自分の納得する価値観を大切に。そんな80后ママの時代から、中国のママは変わり始めている。

経済的な自立

結婚した相手の経済条件がすごく良かったとしても、仕事を続けるのが80后ママ。結婚法の改正により夫婦の共有財産について見直された影響で、自立の機運はさらに強まった。社会でどんなことがあっても対応できるように自分がしっかりしなければならぬと常に思っている。

80后ママの主な特徴

安定した時代に育ち、一人っ子が多く、インターネットを若い時から使ってきた80后は、その上の世代とは違った特徴を持つ。

新しいもの好き

エンタメ関係、レストラン、リラックススポットなど新しい情報とにかく敏感。また、社会の事や生活まわり、経済関連など各種ニュースに関する話題も豊富。昔のママは、家の生活だけを意識してきたのに対して、80后ママは、男性と同レベルで働いていることもあって、友達と話す話題も、時代に合ったものに。

オシャレ好き

外国の洋服や商品を生活に取り込んでいる。とにかく、ダサいのはイヤ、Out（流行おくれ）なものはダメ。雑誌やネットを通じて、最新のトレンドを把握して、それらを取り込みつつ、細かいところは自分でアレンジするのが80后ママ。

仕事を続けることが当然の風潮

80后ママは、強い自立心を持っている。それは、彼女たちの仕事に対する思いに特に強く表れている。とにかく自分の生活の中心を家には置かないというのがポイントで、「全職ママ」（専業主婦）にだけはなりたくないという。かつては、専業主婦という経済的な豊かさを意味し、憧れの対象だった。しかし、80后ママの多くは、仕事をしたいと思っている。彼女たちの意見を聞くと、働くことで一定の経済的な自立・独立ができる、家庭以外にも個人の価値を見出すことができる、家において子どもの世話ばかりしているのはもっと疲れる、専業主婦だと自分の時間が持てないなどの理由を挙げる。

いろいろな理由があるが、旦那に頼らずに経済的な自立ができることと、自分の価値実現に大きな意味を求めていることが分かる。多くの80后ママが、「今はお金を稼ぐことだけが目的ではない。個人の価値の表現とか、他人から認められることを求めている」と言っていたのが印象的だ。

こういったこともあって、理想像とされるタレントも、見た目だけではなく、生き方や価値観が共感できる人が挙げられる。中国で人気の女優、張柏芝や小S、あるいはアンジェリーナ・ジョリーなど、同年代で子育てもしながら活躍しているタレントが多い。

沸騰する消費力

「好きな物は必ず買っちゃいます」と多くの80后ママは言う。ハローキティやディズニーのグッズとか、欲しいと思ったら、絶対に買ってしまう。80后ママの親たちはそれを見て「買いすぎ」というけれど、80后ママたちは、そうは思わない。

大事なのは、子どもが他人から可愛く見られること。他人から褒められたり、注意をひいたりするのが何よりも嬉しい。子どもたちは、もはや80后ママたちの「広告塔」になっていると彼女たち自身が言っている。

さらにもう一つのポイントは、自分たちの「子どもゴコロをくすぐられる消費」。自分の子ども時代にな

かったものを子どもと一緒にやってみようという気持ち。とある80后ママは、子どもと一緒に見ていてLEGOがやりなくなったので、買って自分も一緒になってやっていると。中国の経済的な豊かさが新たな消費を加速させている様子が感じられる。

手慣れたリサーチ力

この世代の特徴の一つは、ネットの使いこなすパワーである。いろいろな情報チャネルから商品情報を集めている。アマゾンやタオバオ、京東商城、新蛋などさまざまなショッピングサイトでとにかく調べる。調べる主な内容は、値段や他のママからの口コミである。

掲示板では、子どもの月齢別のママグループが形成されている。たしかに、年齢が大体同じで、同じ時に妊娠していて、子どもの年齢が一緒だと、共通の話題が多い。例えば、Liba網を見ると、「2010年8月前後に出産ママのグループ」とかがある。そういう集まりが、QQというチャットソフトを使って頻りに話し合った

りしている。ネットで知り合った仲間で実際に集まるオフ会も開催されて、生まれた赤ちゃんを連れて公園で大集合したりするのが最近流行しているようだ。

盛り上がる話題は、買い物の話題。例えば、粉ミルクをどのブランドにするか、ベビーカーは何が良いか、離乳食は何にするか、子どものスキンケアは何にするかなど、当然ながら、子ども関連の話題で盛り上がることが多い。

80后は新人類として注目された世代だが、博報堂のデータベースであるGlobal HABIT調査の結果を見ても、ママとなった80後の価値観はこれまでの世代のママと比べても変わってきていることがわかる。特に、夫婦間の経済的な自立に関する項目（「夫婦でもお金の貸し借りはきちんとする方がよい」、「家族内の力関係はお金で決まる」など）は他世代のママと比べて、大きな差が見られるのが特徴である。変わり始めた中国のママとその消費動向から今後も目が離せない。

80后ママのヒット商品・サービス・話題

● 安全問題

言わずと知れた中国の安全問題は、80后ママにとって最大の関心事。粉ミルクや食品、学校の安全の問題などは母として一番気にする問題。

● 海外ネットショッピング

子どものぜいたく品消費がすごい。10万円以上するSTOKKE XPLORYは、「ベビーカーのロールスロイス」と呼ばれ、憧れの的。とにかく周りから羨ましがられると嬉しい。このように、品質が信頼できる欧米や日本のブランド、特に、生産も欧米や日本で行われている商品が人気。

● 早期教育

なんと生後2カ月からスタートできるところもあり、過熱ぶりがうかがえる。イマドキの80后ママは、子どもに勉強させる、ということもあるが、いろんな体験をさせて、子どもの潜在能力を刺激したり、他の子どもたちと触れ合う経験も与えたいと願っているようだ。



公園に80后ママたちが集まる「オフ会」

● ダイエット針&マッサージ

80后ママの理想は、出産後に元の体型に戻ること。食事を抑えるための針・マッサージが流行している。今のお母さんは昔と違って、子どもを産んでもすぐに仕事に戻る、そんな有名スターのようになりたいのである。